

# 日本長老教会設立 30 周年記念宣言

## 文案の検討経緯・歴史的背景

2023 年 5 月 3 日

日本長老教会設立 30 周年記念宣言作成委員会

### 1. 検討経緯

日本長老教会は設立 30 周年(2023 年 5 月 3 日)を迎えるにあたり、第 30 回大会(2020 年 11 月)において、宣教推進委員会の提案により本委員会を設置しました。大会より委員会に対し「日本長老教会設立趣意書(1993.5.3.)を踏まえての回顧と現状認識と展望を行う」ことが宣言の方針として示され、委員会では宣言文案を作成いたしました。

編集にあたっては、この群れに加わっている教師・長老の一人ひとりの魂に語りかけていらっしゃる聖霊の細い御声に耳を傾けることに注力いたしました。もとより、源流となる日本福音長老教会や日本基督長老教会を含めると 70 年以上の歴史があり、草創の経緯に関する情報も希薄になる中で、自らの歴史を評価し、正しく回顧する事は困難な取り組みと思われました。さらに、近代が終焉を迎えていると言われる 21 世紀において、ふさわしく現状認識を行い、さらに将来の展望を行うことは委員会の手にも余るものです。そこで、本委員会では日本長老教会を構成する教師・長老の魂の中であって、声なき声でとりなしの祈りをしてくださっている内なる聖霊のみ声を拾い集めることをめざし、下記の手順で宣言文案を作成いたしました。

- ・2021/5 大会常設委員会に回顧、現状認識、展望に関して問い合わせを行い回答を得た。
- ・2021/7 教師・長老へのアンケート「宣言に取り入れて欲しい単語は何ですか？」を実施し 2 件の回答を得た。
- ・2021/9 上記資料および日本長老教会設立趣意書とその前身である日本福音長老教会、日本基督長老教会の宣言、歴史的資料の調査結果を元に宣言文案およびその解説資料として、「30 周年記念宣言構成案-文案の検討経緯・歴史的背景-」を作成した。
- ・2021/11 上記資料を第 31 回大会に 2021 年度の委員会活動報告資料として報告した。
- ・2022/2 上記文案について中会・小会にて読み合わせを行うことと、意見のフィードバックをメーリングリストで日本長老教会の教師・長老に依頼し、31 件の意見を得た。
- ・2022/7 寄せられた意見を参考に、委員会にて過去の宣言・歴史的資料の分析、用語の神学的な位置づけ等を考慮し、本文の修正案を作成した。検討結果は一覧表とし、メーリングリストにて日本長老教会の教師・長老に回答した。
- ・2022/8 日本語としての完成度を高めるため、松本曜長老（大阪キリスト教会）に校正を依頼し最終文案を作成した。
- ・2022/11 第 32 回大会に最終文案を提案し、議場からの修正案 2 か所を反映したうえで日本長老教会の宣言として採択された。

並行して、下記の 2 つの資料を作成いたしました。

#### 1. 子どものための「日本長老教会設立 30 周年記念宣言」《わたしたちのきょうかい 日本長老教会》

この資料は

- ①教会に集う契約の子どもたちが、日本長老教会に属する者であることを覚える
  - ②教会学校の教師が子どもたちと共に宣言を読み、日本長老教会の歩みを覚え、祈る助けとする
- を目的に作成したものです。

#### 2. 文案の検討経緯・歴史的背景

将来のさらなる検討の参考として、宣言文案の検討において考慮した神学的背景・歴史的背景を記録しました。

ただし、この文書は本文の解釈を規定するものではなく、大会会議の採決の対象外としました。

これらの文書が、世々変わらぬ真理のうえに立つことを目指す全ての主にある兄弟姉妹が、次の時代を切り開く上で  
の助けとなることを祈念いたします。

## 2. 本文の解説

### <公同教会のあらわれとしての日本長老教会>

1. 私たち「日本長老教会」は、1993年5月3日、三位一体の神の摂理に導かれ、「みな一つとなるため」（ヨハネの福音書17章21節）と祈られた主のみこころに応じて歩み始めました。
2. 教会は、神がその栄光をあらわし、ご自身との交わりを喜び楽しむ聖徒として集められた神の民です。この教会は、天地創造以来各時代に救いと真理の知識を受け伝えて永遠に至り、また、見える教会として歴史の中にあらわれます。
3. 私たちはその一つとして、30年の歩みを導かれたことを心から感謝し、主の御名をあげ、神のみに栄光を帰す思いにあふれます。

1. 引用聖句「みな一つとなるため」（ヨハネ 17：21）が示すように、ひとつになることは主のみこころであるとする。たしかに他の聖書箇所では信仰の純粋性を保つためやむをえない事情が生じることも示唆されている（「本当の信者が明らかにされるためには、分派が生じるのもやむを得ません。」I コリント 11：19）。教会の歴史を振り返ると、日本長老教会はその前史において戦前の日本の主流派に抗して設立した経緯があり、米国の福音的な長老教会は既存の長老教会から分離して創設され、さらにその祖である宗教改革時代のプロテスタント教会もカトリック教会からの分離を選択せざるをえなかった経緯がある。しかし、ひとつになることを目指すことは聖書の基本的な指針であると考え、これを冒頭の言葉とした。同様の趣旨の文言が「設立趣意書」の初めの言葉として記載されており、本宣言文でもこれを「守るべき伝統」として踏襲した。その背景には、同じ志を持ちながらも2つに分かれていた日本の長老教会が、40年の歳月を乗り越えてついに合同したという歴史的経緯がある。
2. 「ウェストミンスター大教理問答」問62では「見える教会」は「真の宗教を告白するすべての者と、彼らの子供たちとから成る一つの社会」であり、多くの教派、教団があるが、「見える教会」もひとつであるという認識がある。日本長老教会「憲法総則」では6条、7条、11条、16条で「公同教会」という言葉を用い、日本長老教会ならびに各地区教会は、「神のみによって完全に知られている」見えない公同の教会の目に見えるあらわれであるという認識を示している。
3. 本宣言文では、日本長老教会がその公同教会の「見えるあらわれ」であるとして、感謝を掲げた。

### <日本長老教会のルーツ>

4. 日本長老教会は、日本基督長老教会と日本福音長老教会の合同により設立されました。
5. 源流となったこの2つの教会は、初代教会から宗教改革を経て、20世紀初頭の米国における根本主義と自由主義の論争を通して再確認された改革主義信仰に立つ長老教会であるという、共通のルーツを持っています。

4. 日本基督長老教会（以下、「基督長老」）は1956年に設立された<sup>1</sup>。米国 IBPFM（Independent Board for Presbyterian Foreign Missions 長老教会海外宣教独立委員会）の宣教師フィリップ・フォクスウェル師、ジョン・M・L・ヤング師と日本人牧師・長老により創設された東京基督神学校（1949年設立、1951年に「日本基督神学校」と改称）をルーツとする。日本基督神学校は1980年に、日本同盟基督教団（TEAM）を母体とする東京キリスト教短期大学、明治期の1881年にルーツを持つ共立女子聖書学院と合同して学校法人東京キリスト教学園を形成し、東京基督神学校と改称され、現在の東京基督教大学（TCU）に

<sup>1</sup> 日本長老教会歴史編纂員会編「25周年記念長老教会歴史資料集」

発展している<sup>2</sup>。

日本福音長老教会（以下、「福音長老」）は1979年に設立された<sup>3</sup>。長谷川眞（本名、眞太郎）師により創設された東京神学塾（1951年）をルーツとし、堀ノ内にあった神学校を中心とした4教会の交わりは「堀ノ内の交わり」として1953年からあった。東京神学塾は聖書神学舎のルーツである。長谷川眞師はIBPFMの宣教師と共に1949年に「東京基督神学校」を設立するも、方針の違いにより2校に分裂し、東京神学塾を創設した経緯がある。IBPFMはOPC(Orthodox Presbyterian Church 正統長老教会)、BPC(Bible Presbyterian Church 聖書長老教会)を母体としている。OPC、BPCは米国の福音的な長老教会である。長谷川眞師もIBPFMの宣教師も共にOPC、BPCと深い関係のある神学校であるフェイス神学校で学んでおり、信仰的な立場に大きな差はない<sup>4</sup>。日本長老教会は40年の月日を超えて再合同したと言える。なお、戦中に神社参拝拒否のため迫害を受けた「美濃ミッション」のエリザベス・アリス・フィエル宣教師もフェイス神学校出身であった。フィエル師がフォクスウェル師、ヤング師の来日に当たって尽力して下さった経緯がある。なお基督長老の初期教師にはOPCとの関りが深いウェストミンスター神学校で学んだ者もいる。

5. 16世紀のジョン・ノックスにより、ヨーロッパ大陸からスコットランドにもたらされたカルヴァン主義はスコットランド長老教会を生んだ。また、カルヴァン主義は、17世紀にイングランドのウェストミンスター神学会議にて「ウェストミンスター信仰基準」として集大成され、その後、北アメリカ大陸に渡り発展し、アジアをはじめとする諸外国へと広がって行った。

19世紀末から20世紀初頭にかけてキリスト教会の伝統的な認識論や人間観・世界観に対し近代啓蒙主義思想の立場からの反対論（自由主義神学）が起こり、世界各地で論争となった。米国においては根本主義者と近代主義者の論争（fundamentalist-modernist controversy）が知られている。日本長老教会のルーツのひとつであるOPC、BPCはこの論争の経緯の中で、既存のアメリカ合衆国長老教会（PCUSA）がリベラルな神学に傾いたことに反対して分離し創立された。なおアメリカ合衆国長老教会（PCUSA）でも1910年の大会では根本主義者側の主張に基づく5つの基本信条：**The Five Fundamentals**<sup>5</sup>が採択されている。5つの基本信条とは下記の5点である。当時の近代主義者がこれらを否定していたと推測される。

- ① 聖書の無誤性(Inerrancy of the Bible)
- ② イエス・キリストの処女降誕と神性 (The Virgin Birth)
- ③ キリストの代償的贖罪の教理と、神の恵みによる信仰を通しての救い（ヘブル9章）(The doctrine of atonement)
- ④ イエス・キリストの体の復活（マタイ28）(The bodily resurrection of Jesus Christ)
- ⑤ キリストの奇跡の真正性、肉体/身体を伴ったイエス・キリストの再臨(The bodily second coming of Jesus Christ)

本委員会では、この論争は伝統的な改革主義信仰を再確認するプロセスの一部であったと考えた。そこで、本宣言では「再確認された」という用語を使用した。例えば聖書の無誤性に対峙するリベラル神学の背景には理性のみを認識の根拠とする考え方があり、この点が根本主義者と近代主義者の論争の主要な論点であった。「ウェストミンスター信仰告白」でも、1章6節に「神礼拝と教会統治に関しては、…自然の光とキリスト教的分別によって規制されなければならない、…いくつかの事情があること、を認める」とし、「自然の光」すなわち人間の理性で判断すべき事情もあることは認めている。しかし1章1節においては「自然の光…は、救いに必要な神とそのみ旨についての知識を与えるには十分でない」とし、信仰に至る理解に達するには「自然の光」すなわち理性という

<sup>2</sup>TCUのホームページ「大学沿革」より

<sup>3</sup>脚注1 参照

<sup>4</sup>「東京基督神学校草創期史」（東京基督神学校教授会 2003.3.11）

<sup>5</sup> <https://www.pcahistory.org/documents/deliverance.html>

人間の力のみでは十分ではないとしている。20世紀初頭の「根本主義者と近代主義者の論争」のはるか前から、理性という人間の力のみによっては救いに至る理解に達することができず、このために人間が救いに至る知識を得るためには聖書が与えられている、従って、聖書が神のみ言葉であるということは前提として受け入れるべきである（同1章4節）という立場を 웨스트ミンスター信仰告白は取っている。 웨스트ミンスター信仰基準が書かれた17世紀にはすでに近代啓蒙主義的な理性信仰（理神論）の萌芽があり、 웨스트ミンスター神学会議はこれを否定することを土台として信仰告白を構築したものと考えられる<sup>6</sup>。

日本への長老教会の伝搬としては、明治維新の際にローマ字の発明で有名なジェームス・カーティス・ヘボン博士が長老派であったことが挙げられる。ただし日本の初代教会は「長老教会」という用語を継承せず、「日本公会」と名乗り、 웨스트ミンスター信仰基準を取らず簡易信条を採用し、より広い立場で大同団結する日本独自のエキュメニカルな教会の設立を選択した<sup>7</sup>。これを簡易信条問題という。この事件が勃発した時、米国改革派のジェームス・ハミルトン・バラ宣教師は、「あなたの心に悪魔が入った。」と初代牧師であった稲垣信師に対して怒り、口を3日間きかなかったという伝承が残っている<sup>8</sup>。

### <日本長老教会の三原則>

6. 日本長老教会は、① 웨스트ミンスター信仰基準に集約されている正統的で厳正な改革主義信仰を継承し、② 政治的・経済的に独立自治の精神に立ち、③ 教会の主が旧新約聖書に明示している長老政治を実践する、という3つの原則の元に設立されました。
7. 神の誤りなきことばである旧新約聖書のみを信仰と生活における最終的な権威として、反キリストの勢力に立ち向かい、聖潔なキリスト者生活と、みことばと善き業による国内外での積極的な宣教を目指してきました。
8. その志を与えられ、また導かれたことは、ただただ聖霊なる神の御業と感謝するほかありません。

6. 基督長老教会・福音長老教会の設立趣旨および日本長老教会設立趣意書の文言を踏襲した。私たちの信仰の重要な基礎と考える。

① まず ウェストミンスター信仰基準 について言及されている。歴史的には、明治初期の日本公会が 웨스트ミンスター信仰基準を捨て使徒信条のみによる緩い信仰基準に基づいて大同団結を目指したという背景がある（「簡易信条問題」）。基督長老設立時にはこの課題の克服が最大関心事のひとつであり、戦前からの日本のキリスト教主流派の流れに抗して、 웨스트ミンスター信仰基準に立つ教会を作ることが主要な目的のひとつであった。小畑進師の守山キリスト教会での講演でも、ドルト信条等他の信条ではなくなぜ 웨스트ミンスター信仰基準のみを取り上げているかについて、 웨스트ミンスター信仰基準にすべてが網羅されているからであると述べている<sup>9</sup>。基督長老の設立趣意書では「 웨스트ミンスター信仰基準」という言葉が明示的に用いられているが、その後の宣言では「厳正な改革主義神学」という言葉が用いられた。福音長老・基督長老が合同する時に再度、「 웨스트ミンスター信仰基準に集約されている改革主義信仰」という表現に戻した経緯がある。

なお、 웨스트ミンスター信仰基準を聖書に優先するという事は意図しない。 웨스트ミンスター信仰告白こそが、教会の伝承の権威が聖書の権威の下にあることを主張している（ 웨스트ミンスター信仰告白 1.1、1.5）。 웨스트ミンスター信仰告白そのものも、その例外では無いと考えるべきである。

基督長老ではその草創期に、 웨스트ミンスター信仰告白が聖書の権威に関する異論に対する防護壁となった

<sup>6</sup> 「秘儀なきキリスト教」（1696年）理神論者トーランドの著書。

<sup>7</sup> 大村晴雄『日本キリスト教小史』いのちのことば社

<sup>8</sup> 黒田誠、山の上教会誌「なまむぎ」No18「日本基督長老教会山の上教会十年史」

<sup>9</sup> 脚注1 参照

経緯<sup>10</sup>があったため、 웨스트ミンスター信仰基準を重要視する伝統があった。当時、聖書を「原典」において無謬とする立場があったが、この立場に立つと、人類の手にする聖書には誤りや神の言葉でない部分がありうることとなる。現状の全ての聖書は写本であるためである。この考え方は高等批評・文書仮説など、リベラル神学を許容することを可能とすると考えられた<sup>11</sup>。これに対し 웨스트ミンスター信仰告白 1.8. では「ヘブル語の旧約聖書とギリシャ語の新約聖書とは、…神の独特な配慮と摂理によって、あらゆる時代に純粹に保たれた」としている。このため 웨스트ミンスター信仰告白を取ることは聖書信仰の立場により明確に立つことのしるしと考えられた。基督長老の草創期においては、 웨스트ミンスター信仰告白を取り、聖書信仰に立つことをつらぬくために、既存の教会を除籍されることも辞さなかった長老・信徒もいた<sup>8</sup>。

**改革主義信仰**の内容としては例えば OPC のホームページでは<sup>12</sup>「カルヴァン主義の 5 特質」「契約神学」「規制的原則」が挙げられている。また「聖書の権威」、「神の主権」、「キリストを通しての恵みによる救い」、「伝道の必要性」を挙げている資料<sup>13</sup>もある。

カルヴァン主義の 5 特質とは以下の 5 項目<sup>14</sup>であるが、「神の主権」と罪の影響の大きさが強調されている点に特徴がある。これは近代的なヒューマニズム思想とは根本的に異なる人間観・世界観であり、近代の教育を受け人間中心主義の価値観をもつに至った現代日本人にとっては受け入れがたい面もあるかもしれない。この人間観・神観・世界観が、ポストモダン（脱近代主義）と言われる現代にあつてどのような意味を有するかが問われている。

#### 1) 全的墮落 (Total depravity)

アダムの子を受け継いでいる人間は、まったく善に背向し、罪に死んでいるために、救いを伴う霊的善を意志し、みずから回心のために備える能力をまったく失っている。( 웨스트ミンスター信仰告白 6 章、9 章、ヨハネ 15:5、エペソ 2:1-3 など)

#### 2) 無条件的選び (Unconditional election)

神は、私たちが何を考え、語り、するか、あるいは私たちがどういう人間かということに基づいて、選びをなさらない。神はその主権によって救いの民を絶対的に選ばれる。( 웨스트ミンスター信仰告白 3 章、エペソ 1:4-5、I ペテロ 2:8 など)

#### 3) 制限的・限定的贖罪 (Limited atonement)

キリストの贖いはそれ自身無限の力を持っているが、選ばれた人々のため、実際に救われて天国へ行く人々だけのためである。( 웨스트ミンスター信仰告白 8、10、11 章、ヨハネ 10:11、14-15、ローマ 8:32-34、など)

#### 4) 不可抵抗的恩恵 (Irresistible grace)

神がある人々を救いに選び、反逆する者から愛する者へと変えられるために聖霊を送られると、だれも神に抵抗することも逆らうこともできない。( 웨스트ミンスター信仰告白 10 章、II テサロニケ 2:13、ヨハネ 6:37、44、ローマ 8:29-30 など)

#### 5) 聖徒の堅忍 (Perseverance of the saints)

一度信じ救われるならば、最後まで確実に信仰を保持し、永遠に救われる。( 웨스트ミンスター信仰告白 17 章、ヨハネ 10:28-29、ローマ 8:29-30、38-39、など)

<sup>10</sup> 「東京基督神学校草創期史」p19 (東京基督神学校教授会 2003.3.11)

<sup>11</sup> 山の上教会 大村晴雄長老 より聞き取り

<sup>12</sup> [https://www.opc.org/qa.html?question\\_id=286](https://www.opc.org/qa.html?question_id=286) "How is the OPC different from the Bible Presbyterian Church?"

<sup>13</sup> <https://www.gotquestions.org/Japanese/Japanese-reformed-theology.html> 「改革神学とは何ですか？」

<sup>14</sup> 宇田進 『福音主義キリスト教とは何か』 p.93-94

**契約神学**に対峙する神学としてデイスペンセーション（主義）があると考えられる。デイスペンセーションは聖書の各時代の契約はその時代にのみ有効で、例えば旧約の契約は現代では有効では無いとする。契約神学では聖書に記載されている契約は施行のしかたは違っても本質的に同一の契約であり（ウェストミンスター信仰告白 7:6）、約束・影・預言である旧約とその発展、成就、実現としての新約は一体のものであるとする。

②**独立自治**に関してはウェストミンスター信仰告白 23 章に記載があるが、これは教会の国家の支配からの独立に関するものであった。日本長老教会では海外宣教団体との関係という文脈でこの言葉は使用されてきた。

ウェストミンスター信仰基準制定当時はそれまでのものに代わる新たなイギリス国教会の設立が重要な論点であった。従って、国家元首が教会に介入することを制限し、教会の独自性を維持することがウェストミンスター信仰告白における「独立自治」の意味することであった。この点についても日本長老教会では継承している<sup>15</sup>。脚注の公式見解では、教会と国家は異なった領域の権限を持っており、国家は教会の権限に干渉すべきでなく、教会も世俗的事柄に干渉しないという原則を確認した。一方で、国家的為政者から求められた場合には「助言」を、また非常な場合には「謙虚な請願」を為政者に提出しうることを確認した。

一方、「独立自治」を海外宣教団体との関係の中で捉える伝統もあった<sup>16</sup>。脚注の資料では、戦後、欧米からの経済的支援を受けた教会の運営が、宣教団体との関係で混乱した事案があったとしている。ただし海外宣教団体との協力を否定するものではなく、日本長老教会でも IBPFM、MTW(Mission To the World)など米国の福音的な宣教団体や韓国の宣教師など海外宣教団体との協力は創設当初から継続して拡大している。なお、IBPFM は OPC、BPC など 1930 年代に米国の北部長老教会から分離した教会の交わりの中で発足した宣教団体である。MTW の前身の ECOE(Executive Committee for Overseas Evangelism)は 1973 年に米国の南部長老教会から分離した PCA(Presbyterian Church in America アメリカ長老教会)との関りが深い。これら 2 つの宣教団体の働きは PCA の海外宣教部門である MTW に継承されている。このため日本長老教会が現在、最も深いつながりを持つ宣教団体は MTW 傘下の JPM(Japan Presbyterian Mission)となっている。さらに韓国（大韓イエス教長老会（合神））やオーストラリア（PCA(Presbyterian Church of Australia)の教会との宣教協約も締結した。

これら外部団体からの定期的な経済支援については 2004 年大会で規準を採択し、一定の規制の中で委員会・地区教会・教師が外部から定期的な経済支援を受けることを可能とした。地区教会を牧会する宣教師については協力教師として日本長老教会の中会における教師としての位置づけがある。

③長老政治については、教会の統治を教職長老と信徒長老によって行うことが聖書に示されている原則であると考え、「守るべき伝統」として踏襲した。詳細は日本長老教会のホームページに解説が公開されている<sup>17</sup>。

## **7・「聖書のみを信仰と生活における最終的な権威とし」。**

「世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。)( I コリント 1:21)と聖書自身が証しているように、ウェストミンスター信仰告白はこれを受けて、その冒頭で神のことはである聖書の権威と人間の知性の限界を認めている。(ウェストミンスター信仰告白 1 章)

明治以降、日本の教会は、認識論上の最終的な権威を聖書ではなく人間理性に置く思想の影響を強く受け

<sup>15</sup> 日本長老教会 公式見解「ウェストミンスター信仰告白第 2 3 章および第 3 1 章の現代における意義」

<sup>16</sup> 「日本長老教会 25 周年記念資料集」所収の小畑進「歴史の源流を遡る」守山教会キリスト教会講演会

<sup>17</sup> [http://cms.chorokyokai.jp/index.php/data/text\\_f\\_top/](http://cms.chorokyokai.jp/index.php/data/text_f_top/)

た。植村正久など著名な指導者も聖書に神の言葉としての権威を認めることに懐疑的であった<sup>18</sup>。一方、基督長老の設立時にはウェストミンスター信仰告白の聖書論の背景にある認識論を強く意識し、啓蒙主義、科学万能主義に忖度する立場を批判する言論が多かった<sup>19</sup>。宇田進師をはじめ多くの長老教会の教師が学んだウェストミンスター神学校ではコーネリアス・ヴァン・ティルによる「前提主義」による弁証論が教えられていた。聖書自体は証明する必要のない「前提」として承認する考え方であった<sup>20</sup>。聖書の権威に関する弁証論としてはコーネリアス・ヴァン・ティル以降も様々な論説があるが、OPC では「前提主義」が現在も広く受け入れられている<sup>21</sup>。

### 「反キリストの勢力に立ち向かう」

教会の社会的責任を明確にするという意味でこの文言を加えた。

基督長老設立時、日本人牧師の中心メンバーの一人が離脱し、いったん教会設立が解消され 1 年後に再出発するという混乱があった。その時の論点のひとつが「神社問題」であった。戦前の日本の教会が宮城遥拝の問題で妥協したことを IBPFM の宣教師たちが厳しく批判したことが牧師離脱の原因のひとつとして挙げられている<sup>22</sup>。しかし、この経験を通じて、天皇崇拝は「反キリスト」を示すひとつのアイコンとして基督長老では捉えられてきた経緯がある。

その後、大会・中会では以下の宣言・声明などを決議している。

#### 1. 日本基督長老教会(1956-1994 年)

1985 年 10 月 10 日 靖国神社公式参拝に反対する声明

1990 年 11 月 22 日 大嘗祭に対する抗議声明文

#### 2. 日本福音長老教会 (1979-1994 年)

1985 年 3 月 21 日 靖国問題に対処するための宣言

1990 年 3 月 21 日 大嘗祭を国事化することへの反対声明

#### 3. 日本長老教会 (1994 年合併後 2022 年まで)

1998 年 11 月 23 日 「日米新ガイドライン・周辺事態法」に関する声明

1999 年 11 月 23 日 「日の丸・君が代」についての宣言

2019 年 11 月 23 日 謙虚な請願「天皇の退位・即位に関わる儀式が国事行為又は宮廷費から支出する公的な性格を持つ儀式として行われたことに抗議します」

2022 年 11 月 23 日 謙虚な請願「首相と閣僚は伊勢神宮参拝をしないでください」

### 「聖潔なキリスト者生活」

基督長老教会・福音長老教会の設立趣旨を踏まえ、日本長老教会設立趣意書の文言を踏襲した。「聖潔なキリスト者生活」の内容については歴史的・文化的な背景により違いがあることが許容されると考える。

歴史的には BPC は例えば飲酒問題について厳しい立場を取っていた。基督長老でもその伝統を受け継ぎ、初期の教師には禁酒禁煙の立場を取るものが多かった。現在、日本長老教会では禁酒禁煙に関して公式の立場は表明していない。OPC、PCA では、教会が特定のルールを押し付けることはせず、この問題を個人の良心に委ねるとしている<sup>23</sup>。ただし、「聖潔」という単語は、日本長老教会の設立趣意書(1993 年)、基督長老の設立趣

<sup>18</sup>岡田稔「植村・高倉神学の行方」

<sup>19</sup>後藤光三、聖書時報 1957-No.2 「N.C.C.トラクトは信頼できるか」

<sup>20</sup>「改革派キリスト教弁証論：Van Til の弁証論」聖恵授産所出版部 絶版

<sup>21</sup> OPC では現在でも「前提主義」が主流であるとされている。

[https://www.opc.org/qa.html?question\\_id=46](https://www.opc.org/qa.html?question_id=46)

<sup>22</sup>東京基督神学校草創期史 (東京基督神学校教授会 2003.3.11)

<sup>23</sup> [https://www.opc.org/qa.html?question\\_id=275](https://www.opc.org/qa.html?question_id=275)、  
<https://www.pcahistory.org/pca/studies/2-051.html>



意書(1956年)、中部中会設立趣意書(1974年)にも盛り込まれている。基督長老の設立趣意書では当時の日本社会を「道徳、風俗ますます腐敗しつつある社会」と認識している。道徳的な面での後退を、現代における社会課題のひとつと捉え、この単語を宣言文に記載することとした。

### みことばと善き業による国内外での積極的な宣教

「福音」の中心命題として宣べ伝えるべき内容は、創造主との和解とそこから得られる永遠のいのちであり、これは大宣教命令から現代にいたるまで変わらない指針である。一方、1974年に世界の福音派が合同して発表したローザンヌ誓約では、多くの福音派において「善き業」を通じた宣教に注力してこなかったことに対する悔い改めが告白された。委員会ではプロテスタントの歴史では、「言葉による宣教」と「善き業による宣教」は常に両方が重要視され、強調されてきたと考える。このことを示すため、みことばによる宣教と併記して「善き業」を追加した。

### <これまでの歩み>

9. この30年の間、教勢の面においては6中会(2倍)、67教会(1.6倍)、会員数4367(1.6倍)に増加拡大しています。宣教の広がりには関東、中部、関西、四国に加えて東北に及び、現在、国外に向けては6名の宣教師が送り出されています。
10. 福音的な立場に立つ神学校を通じての牧師養成、憲法総則・政治基準各則および細則・礼拝指針・訓練規定の制定による憲法の完備、その他各種教会法や式文の整備、伝道者支援基金の創設、大会の宗教法人格取得などに、教会として取り組み、宣教の基盤を強化しました。
11. 「長老職全般についての答申及び聖書的根拠」、「戦争に関する公式見解」、「ウェストミンスター信仰告白第23章および第31章の現代における意義」などを通じて、現代における私たちの信仰的な立場を表明しました。
12. また大会の活動としては、全国青年カンファレンス、全国修養会、広報誌「プレスビテリアン」の発行などによって、交わりと学びの推進に取り組みました。
13. 中会や地区教会でも、キャンプ伝道や子ども伝道、給食伝道、子ども食堂、メディカルカフェ、高齢者クラブなど、時代と地域の必要に応じたさまざまな働きが行われました。

9. 合同当初の中会構成は旧福音長老を中心とする東部第二中会、旧基督長老を中心とする東部第一中会、中部中会の3中会であった。合同を実質化する意味で、1998年5月3日に関東の2中会を地域単位に再編し、武蔵中会、東京中会、神奈川中会、東関東中会の4中会とした。その後2003年に大阪・四国地区に西部中会が設立した。2012年からは東北伝道が開始された。

現在、国外にはアジア、タイ/チェンマイ、オーストラリア、パキスタン、東アジアに6名の宣教師が送り出されている。2000年の大会にて「世界宣教週間の開始」が議され、以降、7月第一週を世界宣教週間とした。機関紙「海外宣教報」を年1回発行し、1988年に開始された世界宣教フェスティバルは8回開催された。1999年から6回、ミッシェントリップとしてフィリピンなどへ宣教体験ツアーを行った。オーストラリア長老教会のメルボルン日本語教会、パース日本語教会に1995年、2005年、2014年に教師を派遣した。

10. 牧師の養成と信徒教育は教会形成の要諦である。日本長老教会では特定の神学校を卒業していることを教師になる条件とはしていない<sup>24</sup>。代わりに、聖書・教理・実践神学の項目を具体的に挙げ、牧会者を志す者はこれを

<sup>24</sup>日本長老教会「教師養成規準」

学ぶことを条件とした。日本長老教会の教師たちが学んだ福音主義を掲げる教会教職養成機関は、現在の東京基督教大学（東京キリスト教学園）、聖書神学舎（聖書宣教会）、聖契神学校、キリスト聖書神学校などである。教師の中にはこれらの学校で教鞭をとる者もいる。また東京キリスト教学園には理事を派遣している。

また、日本長老教会では小会・中会・大会という会議によって教会の重要事項を決定し、憲法（総則、政治基準各則、政治基準細則、礼拝指針、訓練規定）にしたがって運営する点に特徴がある。ウェストミンスター神学者会議でも信仰告白・大教理問答・小教理問答、礼拝指針と共に教会政治が定められ、長老政治の原則が規定されている。日本長老教会はその伝統を継承した。日本長老教会ではこの 30 年間で、憲法総則・政治基準各則・政治基準細則を骨子とし、礼拝指針、訓練規定<sup>25</sup>、日本長老教会宣教協力指針を定めた。教会法基本規準、議事運営規準、委員会運営規準、会議記録作成規準、「厚生基金」規準、教師養成規準、外部団体からの定期的経済支援規準、埋葬施設の利用及び管理規準などを定め、現在も必要な改正が施されている。これらは日本長老教会のホームページに公開されている<sup>26</sup>。大会として宗教法人格取得に取り組み、2017 年には文部科学大臣より宗教法人「日本長老教会」規則の認証を受け、包括宗教法人として法人登記を行った。東久留米に大会事務所（宣教センター）がある。

#### 11. 日本長老教会大会では以下の宣言・見解などを採択している。

日本長老教会設立趣意書(1994 年)

戦争に関する公式見解(1997 年)

「日米新ガイドライン・周辺事態法」に関する声明(1998 年)

「日の丸・君が代」についての宣言(1999 年)

女性長老に関する答申の根拠 (1999 年)

ウェストミンスター信仰告白第 2 3 章および第 3 1 章の現代における意義(2012 年)

謙虚な請願「天皇の退位・即位に関わる儀式が国事行為又は宮廷費から支出する公的な性格を持つ儀式として行われたことに抗議します」(2019 年)

日本長老教会設立 30 周年記念宣言(2022 年)

謙虚な請願「首相と閣僚は伊勢神宮参拝をしないでください」(2022 年)

「N.T.ライト神学の検証と評価」(2022 年)

#### 12. 主のお取り扱い、導きの結果としてのイベントや社会活動として、大会主催のもの、中会・地区教会の取り組みを分けて代表的なものを記載した。

13. 現在はコロナ禍のため開催を見送っているが、中高生や児童への働きかけとして夕森キャンプ（中部中会）、奥多摩での中会中高生キャンプ（関東 4 中会）、丹沢小学生キャンプ（神奈川中会）などが行われた。武蔵中会、東関東中会、中部中会、西部中会、その他の中会では修養会が交わりと信徒教育を目的として開催された。また、路上生活者への給食伝道、子ども食堂を通じての子どもたちとの関り、子育て支援のための働き（ナーサリーや子育てサロン）、末期がんの方たちへの働き（メディカルカフェ）などが地区教会で取り組まれた。

<sup>25</sup> スコットランド信条 18 章では、教会を教会たらしめる 3 つの要素としてみ言葉の説教と聖礼典の執行と戒規が挙げられている。ウェストミンスター信仰基準では信仰告白 30 章に教会の譴責について規定している。

<sup>26</sup> <http://cms.chorokyokai.jp/index.php/archives/>

## <日本社会の現状>

14. しかしながら、これらの宣教の働きにもかかわらず、私たちが遣わされている世界、ことに日本社会に目を転じると、外面的には「足りないものは何もないと言っている」（ヨハネの黙示録 3 章 17 節）ものの、内的な喪失感が蔓延し、人々は「羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れて」（マタイの福音書 9 章 36 節）います。
15. イデオロギー全般に対する不信の結果、人々は信じるべき指針を見失う一方、国家神道体制の復活を試みんとする働きの高まりなど異教的勢力による福音への圧迫が増大しています。
16. 世の人々は、個人や家庭における幸福を希求しつつも、原罪がもたらす道徳的腐敗や家庭内虐待などによる家庭崩壊の困難に直面しています。
17. 環境問題や原子力発電所事故を契機として科学技術を過信してきたこれまでの歩みへの反省が進む一方、社会は迷走を続けています。
18. さらに自然災害やパンデミックなどの外的な脅威や戦争などから生まれる不安と無力感が世界を覆っています。

**14.** 引用した聖句「足りないものは何もないと言っている」（黙示録 3:17）は本来、高慢になったラオディキアの教会に対する警句であるが、日本の現状によく当てはまると考えこの言葉を選んだ。日本は敗戦の打撃から経済的には立ち直り、世界に類を見ないほど繁栄し、戦後 77 年間、直接の戦闘行為には参加せず、外面的には平和を享受している。また、自分たちは知識や徳の面でも優秀な民族であると考えている。しかし、日本人一般の中にキリストによる救いに対する渴望の思いを持つ者は少ない。霊的な目で見ると日本人ほど創造主から離れ、さ迷っている国民は無く、その結果として以下に示す通りの惨状にあると考える。

**15.** 20 世紀末の学園紛争や社会主義革命運動の挫折により、特定の政治思想に殉じることに対する忌避感が日本社会に浸透し、若者の政治離れが進んでいる。またオウム真理教や統一協会など過激な新興宗教が反社会勢力となり社会問題化する中で、特定の価値観を持つこともタブー視されるようになった。その隙間をつくように戦前の国家神道体制の復活をはじめとする勢力による揺り戻しが起き、国粋主義思想に影響される若い世代（ネトウヨ；ネット右翼）も現れ始めた。30 年前の設立趣意書にある「有形無形にキリストの福音を圧迫し弾圧の道を備えつつある、ヤスクニなどに代表される反キリストの勢力」は衰えるどころかその危険はますます増大している。本宣言でも設立趣意書にある文言の趣旨を踏襲し、「国家神道体制の復活を試みんとする働きの高まりなど異教的勢力」という文言を加えた。なおカタカナの「ヤスクニ」という言葉を入れることも検討したが、以下の理由で上記の文案とした。

- ・ヤスクニ法案以外にも日本古来の思想や特定の個人を偶像崇拜の対象とする運動はある。
- ・「ヤスクニ問題」という言葉の背景にある課題を理解しない人が増えてきた。

**16.** 政治的・社会的な理想の代替物として、日本国民の多くは男女間の愛や家族の愛など身近な幸せを追い求めている。巷にあふれる TV ドラマ・小説・漫画・映画のほとんどがこれを最高の価値としており、現代においては日本国民のほとんどの人が合意する唯一の共通価値と言ってよいほどである。しかし現実には家庭内暴力や児童ネグレクト、離婚など家庭に関する悲惨な事例は多数起きている。これは原罪がもたらす結果であり、最高の夫婦の間の愛であってもその影響を避けられず罪の実としての悲惨を経験している。

**17.** ルネサンス期に欧州で始まった「近代」は「中世」の矛盾を解決する希望の時代であるとされてきた。「迷信」と「王権」の支配の下に抑制状態にある人民を、理性と科学文明によって解放し、人間の権利と自由を回復し、人類は

永遠に進化すると考えられてきた。たしかに産業革命以降、医学の進歩により新生児の死亡率は急減し、平均寿命も伸び、世界の人口は急増してきた。しかし 20 世紀後半から、工場から排出される汚染物質による環境破壊や周辺住民の健康被害（公害問題）、自動車や化石燃料の発電設備から発生する温室効果ガスによる地球温暖化問題など、近代科学文明の負の部分が認識されるようになった。東日本大震災における原子力発電所事故も、科学技術が人類にもたらす負の影響の大きさを改めて認識させた。原子力発電事故は近代科学文明の挫折のひとつの象徴であったとも言える。これらのことから社会一般でも理性の限界を認識する動きがある<sup>27</sup>。しかし、近代合理主義を超える思想はなく、日本人は信じるに足る土台を失っている状態にある。

**18.** 日本でも阪神・淡路、東日本、北海道胆振などの大震災や集中豪雨など自然災害の回数が増えている。また、新型コロナウイルスは世界で 683 万人以上の死者を出している（2023 年 2 月末現在）。これらの災害を通じて自然の前における人間の無力感を感じる者が増えている。また、ソ連の崩壊により終結したと思われた冷戦もロシアのウクライナ侵攻や台湾をめぐる米中対立など、「戦争や戦争のうわさ<sup>28</sup>」もおこっており、この面でも人類の無力に思いを至らされる。特にロシアのウクライナ侵攻は、「戦争の世紀」と言われた 20 世紀を乗り越え国際社会が勝ち取ったと思われた民族自決、紛争の平和的解決などの諸原則を踏みにじるものであった。

#### <日本のキリスト教の現状>

19. また教会に目を向けると、20 世紀後半には自由主義神学を奉ずる教会で啓蒙主義や政治活動の流れに乗ることで時代を切り開こうとする動きがあり、混迷が続いています。
20. 一方、福音派と呼ばれる教会にあっても、聖書観の流動化やこの世との迎合により、歴史的な正統的信仰を見失う危機が近づいています。
21. 日本長老教会でも、洗礼数や教会学校など教勢の面における鈍化・後退がありました。

**19.** 1970 年代、日本基督教団では伝道派（政治的・社会的運動よりも伝道を優先）と社会派（伝道を教勢拡大主義として非難）の対立が顕在化し、社会派の中でも学生運動、中核派の影響を受け、暴力による共産主義革命を目指す青年信徒が東京教区総会の議長を殴打するなど暴力事件に発展した。伝道派の歴史文書である「実録教団紛争史」では、社会派の牧師を「内に持てるものは福音とは似て非なるヒューマンイズムの愛の思想である。そこで、体制破壊・虐げられし者の解放を呼号する反権力的時流に乗ることによって、魂の空虚を満たすべき代替物を求める」とし、社会派の教師を非難している<sup>29</sup>。21 世紀に入っても教団内の対立は続き、「贖い不要論」をとねぶり聖餐をする教師も現れた。このように日本の主流派であった日本基督教団が内部で混乱している間に、福音諸派は伝道に集中し教勢を伸ばした。

**20.** 一方で、福音派内部でもキリスト者の政治的・社会的責任に目を向ける動きがある。1974 年に採択された「ローザンヌ誓約」が有名である。そこでは伝道の本質は「人々が一人一人個人的にキリストのもとに来て、神との和解を受けるように説得する」ことであるとし、基本的な立場は堅持している。しかし、キリスト者の社会的責任という面では「人種、宗教、皮膚の色、文化、階級、性別、年齢にかかわらず、それぞれ本有的尊厳性を有するものであり、…私たちは、これらの点をなおざりにしたり、時には伝道と社会的責任とを互いに相容れないものとみなしてきたことに対し、

<sup>27</sup> 例) R・F・ドラッカー著「テクノロジストの条件」には以下の記載がある。「21 世紀の諸問題は近代合理主義では解決できず全体を見て本質を把握せよ」

<sup>28</sup> 「また、戦争や戦争のうわさを聞くことにはなりますが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。」 マタイ 24:6

<sup>29</sup> 小林貞夫 著 「実録 教団紛争史」 出版社、メタブレーション・発売日、2012/2/1

ざんげの意を表明する。」と宣言している。以降、日本の福音派でも教会が社会的な面での貢献を積極的に行う方向での見直しが行われてきた。このように、社会的貢献を行うという点で福音派が「善き行いによる宣教」に回帰したことは聖書に基づくものであり、「聖書観の流動化」には繋がらないと考える。

しかし「福音派」と呼ばれる教会の中でも、NPP（New Perspective on Paul、パウロ研究における新しい視点）など、改革主義信仰を踏み外すと目される教えも広がりつつある。これらは聖書観のみでなく、私たちのアイデンティティである歴史的・正統的信仰を揺るがせ、戦時中に日本の教会の多くが犯した妥協の罪に戻るリスクがある。

21.大会資料（教勢報告）によると、日本長老教会は信徒数としては2011年から2021年までの10年間で3625名から4280名に増加しているが、現住陪餐会員は2011年には2052名であったものが2018年2467名をピークに2021年には2417名に減少している。これらの数字だけで宣教の成果を評価することはできないが傾向を示していると考えられる。なお、カトリックは2009年の45万人をピークに2018年に42万人に減少し、日本基督教団は1995年の14万人から2018年に11万5千人に減少しており<sup>30</sup>、日本全体では以前からクリスチャン人口の減少傾向が続いてきたと言える。

### <キリストにある勝利の希望と私たちの誓い>

22. このような現状にあっても私たちは、イエス・キリストがすでに世に勝ち、神の国が始まっていることを確信します。
23. 私たちは、一人ひとりがまことにキリストのしもべであるという自覚を持ち、祈りを深めます。それを通して、福音の立証と宣教を通して人々がイエス・キリストへの信仰へと導かれ、罪の赦しとたましいの救いに与り、キリストに似るものとして成長して、神の支配がこの世の全領域に及ぶことを求めます。

22.このように日本の状況は楽観できるものではないが、終末の時代に向けた警告だけでなく、キリストにある希望の光として以下の聖句を元に、この言葉を掲げた。「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」(ヨハネ 16:33)

23.この希望の言葉を根拠として、私たちが何を指すかについて以下に記載した。目指す具体的な項目としては、大会各委員会へのアンケート(2021年7月)、および全教職者、信徒長老へのメールでのアンケート(2022年1月)を通じて寄せられた意見を集約し、決定した。

なお、この宣言の内容も、改革主義神学に基づいたものでなければならぬと考え、人間の力や知恵に基づく「事業計画」や「組織目標」を提示することは避けるべきであるとした。代わりに、教師・長老だけでなく信徒一人ひとりが、遣わされた全領域において、キリストの弟子、しもべ、であるという自覚を持つことと、主に頼ること、「祈り」を全ての基礎にすべきである。これを通じて、言葉と行いによる宣教が進み、人々が本来あるべき神の元に帰ることが、現代世界が抱える課題の解決につながると考えた。

24. 私たちは、みことばに基づく礼拝を徹底し、改革主義信仰に基づいた宣教を推し進め、新たな教会開拓に取り組みます。また、聖潔なキリスト者生活による証しの領域拡大と深化のために教職および信徒全体に対する神学教育システムのさらなる拡充に努めます。

24.創造主から離れ、キリストの救いを知らない日本人に遣わされたキリスト者として、私たちがまず最初にすべきこと

<sup>30</sup>文化庁編『宗教年鑑』（2019年版）

は礼拝であると考え、礼拝について言及した。「みことばに基づく」礼拝という文言では以下の2つの側面があることを意識した。ひとつは「信仰の事柄と、礼拝と教会政治の本質に関わる事柄においては、聖書が命じていないことは、禁じられている。」(ウェストミンスター信仰告白 21 章) という原則。もうひとつの面は、外面的なこと、事情によることは「常に守られなければならないみ言葉の通則に従い、自然の光とキリスト教的分別とによって規制されなければならない」(ウェストミンスター信仰告白 1 章 6 項)。

「改革主義信仰に基づいた宣教」という言葉は憲法総則のことば「改革主義信仰」「宣教」を用いた。「改革主義信仰に基づいた宣教」の内容については様々な意見がありうるが、時代と共に移ろっていく思想に基づくのではなく、また、単なる組織の拡張を目指すのでもないことを示すことを意図した。

主イエスの宣教命令が私たちの働きの動機であり、設立趣意書でも「主イエス・キリストの宣教命令を忠実に果たし」としている。その働きのひとつとして、聖書は「使徒の働き」の記述を通して、この福音の宣教が各地に教会の交わりを形成することを通じて進められたことを示している。現代においても新たな教会を生み出すことが効果的な宣教の手法である事を私たちは経験してきた。この 30 年の日本長老教会の歩みにおいても、様々な形の教会開拓がなされている。そこで宣教の働きに関連し「教会開拓」という文言を用いることとした。

一方、宣教は言葉による直接的な宣教と、キリスト者が遣わされた全ての場所、コミュニティにおける「聖潔なキリスト者生活による証し」によって進められると考えた<sup>31</sup>。さらに、聖書に示されウェストミンスター信仰告白で告白された人間観・世界観に基づいて、「領域拡大と深化」を進めることを目指すとした。すなわち、従来キリスト教会が貢献してきたと考えられる介護・医療・教育分野以外の、ビジネス・研究開発・芸術などへ改革主義的世界観の適用領域を拡大し、すでに取り組んでいる分野も含めプロフェッショナルとしてのモラルやスキルにおいて深化することを目指す。

これらの働きの土台となる改革主義的世界観・人間観を支え、充実させるため、神学教育システムの拡充に努めるものとした。

**25. 私たちは、救われる者やクリスチャン・ホームの増加、契約の子らの信仰継承、新たな献身者が与えられることを祈り求めます。**

25.日本のプロテスタント人口は1%以下を下回っており、2011年をピークに減少している<sup>32</sup>。新たに救われる者が起こされ、クリスチャン・ホームの形成を通じて信仰が継承されることは現在の日本のキリスト教会の喫緊の課題である。日本長老教会では2018年時点の統計では減少傾向には至っていないが、コロナ禍のため面直のコミュニケーションや教会堂に集まったの集会在制限される中、福音の伝え方の工夫が求められている。また、牧師の高齢化に伴う牧会者不足の懸念も訴えられており、新たな献身者が与えられることを求める祈りも必要である。

<sup>31</sup> I テモテ 4:12 「あなたは、年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。むしろ、ことば、態度、愛、信仰、純潔において信者の模範となりなさい。」

<sup>32</sup> JMA「JMA調査レポート(2018年度)日本のプロテスタント教会(教団・教派)の現状と分析」2019年4月 東京基督教大学 国際宣教センター

26. 私たちは、ウェストミンスター信仰基準に立つという原点を思い起こし、歴史的・正統的信仰を個人の生活のすべての基盤として、同性間結婚に見られる道徳観の多様化や環境問題など 21 世紀における諸課題に聖書的に取り組みます。

26. LGBTQ や環境問題だけが 21 世紀の課題ではないが、大会委員会、教職者・長老へのアンケートではこの 2 点に関してのご意見があったため、例として記載した。

LGBTQ の問題については差別につながるデリケートな問題であるので、配慮した言い回しとすべきと考える。ただし、同性間結婚については聖書に明確な規定があると判断し、このような記載とした。

なお、LGBTQ に関しては、現代のキリスト教会の中でも様々な立場があり、例えば以下のような意見がある。

① 生まれながらの人間性の一部として無条件に受け入れ、教職者への任職も含めて問題なしとする立場

① 原罪によって後天的に発現した欲求・嗜好であり、聖書でも明確に禁止されている「矯正の対象」であるという立場。

立場①は米国聖公会(Episcopal Church in the United States of America)、米国福音ルター派教会(Evangelical Lutheran Church in America)、米国改革派教会(Reformed Church in America)の主流派がその立場に立った。が、その後これに反対する保守的な教会が分離独立するなど混乱の元になっている<sup>33</sup>。また日本でも「キリストの風」集会などがこの立場に立つ。

② の立場としては、福音的な立場の超教派の宣言としてマンハッタン宣言<sup>34</sup>があり、同性間結婚や人工妊娠中絶に反対している。

日本の福音派の中でも「性の聖書的理解ネットワーク」、「性の聖書的理解ネットワーク「NBUS」を憂慮するキリスト者連絡会」および第三極を目指す「ドリームパーティ」<https://dreamparty.church/>など議論や活動が活発化している<sup>35</sup>。

日本長老教会としての公式見解はまだない。今後、組織神学、聖書神学、実践神学（マイノリティの権利保護、心理学、医学）など様々な観点から取り組むべき奥の深い問題であると考え、今後取り組むべき重要な課題のひとつとして記載した。

同様に環境問題も 21 世紀の重要な課題となっている<sup>36</sup>。この問題に関しても、日本長老教会としての公式見解や宣言は無い。聖書に示され、ウェストミンスター信仰告白で告白された人間観・世界観に照らして、何が問題の本質であり、日本長老教会としてどのような取り組みをすべきかが問われていると考える。

27. 私たちは、社会的弱者に対する地区教会の取り組みを励まします。

27. 上記 26. の LGBTQ に関する文言を宣言文に入れるにあたり、日本長老教会内からマイノリティ保護の観点から慎重に扱うことを求めるご意見が寄せられた。原則論として聖書に忠実に従うことは大前提である。一方で、社会的弱者のための愛の実践は旧約における寄留者、孤児、やもめの扱いからはじまり、新約におけるキリストの重要な教えである<sup>37</sup>。そこでこの文言をつけ加えた。

<sup>33</sup> <https://www.nytimes.com/2008/12/04/us/04episcopal.html>  
<https://www.washingtontimes.com/news/2009/nov/19/conservative-lutherans-to-leave-synod/>  
<https://evangelicalfocus.com/world/15046/us-conservative-churches-leave-rca-for-liberal-theology-issues-to-form-new-group>

<sup>34</sup> <https://www.manhattandeclaration.org/>

<sup>35</sup> クリスマス新聞 2022 年 9 月 25 日 2 面

<sup>36</sup> アンケートに対する社会委員会回答より

<sup>37</sup> 「寄留者、孤児、やもめのさばきを曲げる者はのろわれる。」申命記 27:19

LGBTQ の問題に限らず、ローザンヌ誓約に示された「人種、宗教、皮膚の色、文化、階級、性別、年齢にかかわらず、それぞれ本有的尊厳性を有す」ものへの愛の実践を目指す。

**28. 私たちは、天皇を神として引き起こしたかつての戦争に多くの教会が加担したことへの反省に立ち、欲望や憎しみの連鎖の果てに起こる全ての侵略戦争に反対し、世界平和を希求します。**

**28.**この宣言を編集している期間内の2022年2月からロシアによるウクライナ侵攻が始まった。この出来事を通じて、世界平和に関してこの宣言で言及するべきという意見がある小会から寄せられた。当委員会でもこの点が、現代においてもなお、未解決な重要な社会課題であるという認識に立ち、この文章を加えることとした。なお、アジア太平洋戦争において日本の主要な教会が戦争遂行に賛成し加担したことに関して、日本基督長老教会設立に貢献したジョン・M・L・ヤング師は、この戦争が天皇や日本国家の体制や思想（国体）を偶像とする「偶像崇拜」である点こそ悔い改めるべき第一のポイントであるとしている。<sup>38</sup>また、「戦争に関する公式見解」(1997年)では、ウェストミンスター信仰告白 23:2 では「合法的戦争が積極的にではなく消極的に許容されている」として合法的戦争の存在を認める立場を踏襲しながらも、「現代戦争には質的にも量的にも極端な違いがある」ため「如何なる戦争も未然に防ぐ努力をする義務」があるとしている。

**29. 私たちは、全世界に広がる宣教の畑を自覚し、他教会・他団体とも協力しながら、宣教と教会設立に関わる宣教師を派遣・支援することで世界宣教に貢献します。**

**29.**現在、宣教の働きはウイクリフ聖書翻訳協会、SIM (Saving in mission)、単立、OM (Overseas Missions、予定) などの宣教団体との協力で行われている。

**30. 私たちは、聖書を信仰と知識と生活の最終的な基準とする国内外の群れと、神学的な貢献を含めて一層親密な交わりを保ち育てます。**

**30.**日本長老教会が福音派であるかどうかという論点は、そもそも福音派が変質しているという意見もあり、かつてほど意味を成さなくなった。ただし日本長老教会は日本キリスト教協議会 (NCC) に参加せず<sup>39</sup>日本福音同盟 (JEA) に参加し、献身者を送っている主要な教育機関である東京基督教大学 (TCU) も「日本で唯一の福音主義プロテスタント超教派の四年制神学大学」を謳っており、客観的には「日本の福音派」の一員である。今後「聖書を信仰と知識と生活の唯一の基準とする」国内外の教会と協力する。

「設立趣意書」にはすでに「神学的な貢献」という言葉が見えるが、その傾向は草創期からあった。福音長老の源流である「東京神学塾」は舟喜順一師、有賀寿師、尾山令仁師など KGK (キリスト者学生会) や hi-b.a. (高校生聖書伝道協会) など超教派の群れの草創期を支えた指導者を輩出し、日本基督神学校も神学的なバックアップを行った<sup>40</sup>。

---

「まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」 マタイ 25:40

<sup>38</sup> ジョン・M・L・ヤング「宣教師が観た天皇制とキリスト教」

<sup>39</sup> 合同後の第1回大会で日本福音同盟理事の派遣を決定し、第2回大会で「日本キリスト教連合会」への加盟を否決している。(「25周年記念長老教会歴史資料集」)

<sup>40</sup> 下川友也 「東京基督神学校草創期史」



31. 私たちは、この終わりの時代にあつて、罪人であることと自らの限界とを自覚し、互いの意見に心を開いて傾聴し、批判的に検討し合い、学び、祈りつつ、愛において全ての事がらに取り組んでいきます。

31. 本宣言で提起した社会課題や教會的な事柄については日本長老教會内にも様々な意見があり、どのように向き合うべきかを模索している途上にある。違いを受け入れつつも各自の良心に従つて意見を交わし続けることが求められていると考え、この言葉をまとめた言葉とした。

「もしも誰かが私たちの信仰告白の中に、神の聖なる御言葉に反する章句か文章があることに気づいたならば、親切から喜んで、そしてキリスト者の愛の故に、私たちにそのことを文書で知らせるべきであると主張します。私たちは名誉にかけて、神の恵みによって神の口から、すなわち聖書から、彼が満足する回答を与えることをはっきり約束します。また彼が誤りであると証明できることは何であれ改めることにやぶさかではありません。」（スコットランド信条の前文より）

32. 「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が、あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように。また、御前でみこころにかなうことを、イエス・キリストを通して、私たちのうちに行ってくださいますように。栄光が世々限りなくイエス・キリストにありますように。アーメン。」（ヘブル人への手紙 13 章 20、21 節）

32. 設立趣意書の引用聖句（ヘブル 13：20、21）を踏襲した。この祈りは「神が」を主語とする 3 人称の型の集祷文（ともに集まっての祈祷）の形式であり、主要な祈願は「（神が）あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように」である。「整え」とは「正常な状態に置く」という意味である。個々の力が結集して調和あるものとされ、欠けが補われ、誤りが正され、そのようにして、ますます主の「みこころを行わせてくださいますように」と祈り求められている。私たちも互いのために、心を込めて大胆に、平和の神に祈りつつ歩み続けたい。「平和の神が、あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように」。神に栄光。

以上